

対話型オンライン保育合同研究会 保育施設基本情報フォーマット

園・施設名	社会福祉法人 青葉福祉会 幼保連携型認定こども園 青葉こども園
経営主体	社会福祉法人 青葉福祉会
所在地	〒980-0004 宮城県仙台市青葉区宮町1-4-47
定員	2・3号認定…130名 1号認定…9名
理事長名	庄子 清典
園長名	木村 智子
採用担当者	庄子 秀平
電話番号	022-261-6731
保育理念 保育方針 保育目標	<p><b>保育・教育理念：</b>「子どもの尊厳と習慣を育む」</p> <p><b>保育・教育目標：</b></p> <p>丈夫なからだ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・薄着で裸足の生活を通して健康で丈夫な心とからだを作る。</li> <li>・フツ素洗口を行い、虫歯ゼロを目指す。</li> </ul> <p>感じる心</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園での様々な経験を通して、感性を磨く。</li> <li>生きる力</li> <li>・自分で考え判断し、見通しを持って行動する。</li> </ul>
保育環境	当園は仙台駅から徒歩10分に位置する都市型の保育園です。
ホームページURL	<a href="https://aofuku.or.jp/nursery/aoba">https://aofuku.or.jp/nursery/aoba</a>
事前質問	<p>《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>・まずは指針の内容を読み込み、職員間で共通理解を図ること。そのうえで法人理念や保育方針に基づいた保育の実践を通し「子ども一人ひとりが心身ともに安定して過ごす中で、遊びを通した様々な学びとの出会いを、様々な立場の職員が自らの専門性を発揮しながら支えていく」環境を作っていくことが保育の質と考えます。そういった意味では、「保育の質＝保育園の質」ということになるかもしれませんが、言葉にするのは簡単ですが、その実現のために当園では、目の前の子どもをどのように捉えるのか、行動の裏にはどのような思いがあるのか、子どもの背景には何が隠されているのか、など、職員同士で多角的に子どもの姿を探ることができるよう対話を大切にしています。その上で、何を求めているのか、どのような思いで過ごしているのか、さらにはどのような関わりが必要なのかを、担任保育士に限らず、また場合によっては栄養士や看護士なども一緒に様々な立場から意見を交わし、共通理解の下に、子どもの成長を支えることができる保育園でありたいと日々の保育に向き合っています。</p>
	<p>「保育の質」の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。</p> <p>・毎月の各部門ごとの内部研修や事例検討会、エピソード検証があります。また、4園の合同研修もそれぞれにあたるかと思います。各部門においては0歳児研修、1・2歳児研修、以上児研修など各部門ごとに実施していますが、時期や状況に応じてその括りを柔軟に変更しながら取り組んでいます。内容としては、映像を使った振り返りやエピソードの検証、時には今抱える悩みの共有などを行っています。4園の合同研修では外部の講師を招いた研修のほか、法人内の職員が経験年数別に集まって学ぶ機会もあります。同期という立場で他園の職員と学びの場を共にすることで違う保育観に触れたり自己の保育を振り返ったりするきっかけになります。また、今年より、あおぼっこ学びの会を発足し、とことん保育の話の会を突き詰め、実践と照らし合わせながら自分たちの保育への学びを深めていくという有志の勉強会も始まりました。</p>
	<p>学生の就活において「職員同士の人間関係」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。</p> <p>・どんな職業でも職場でも、その環境の中で職員同士の「人間関係」が存在します。入職してから人間関係に悩むことは必ずあります。誰もが「人間関係のいい場所働きたい」と思っていることでしょう。では「いい人間関係」とは何か。人間関係と一言で言っても人間関係の部分のどこを重視していくかによってその「良さ」の捉え方が変わってくると思っています。公私にわたって仲の良い雰囲気や「いい人間関係」と捉える視点もあるでしょうし、多少厳しいようでも、多少意見が交わすことができる環境を「いい人間関係」と捉える視点もあるでしょう。どちらもきっと「いい人間関係」なのだと思えます。従って、就活において人間関係を重視するのであれば、自分にとっての「職場における望ましい人間関係」とはどのようなものかというのをしっかりと持っていることが大切だと感じます。当園の人間関係について述べると、私たちは「対話」をとても大切にしています。しかし、そこで忘れてはいけないことは真ん中に子どもや保護者を置いて話ができているかという点です。ですので、子どもや保護者にとっては不適切だと感じる関わりや働きかけがあったり、時には保育士の主観だけになってしまったりする場合はしっかりと話し合うようにしています。職員も子どもにとっては大切な環境の一部。職員が楽しそうにコミュニケーションを図っていたり、本気になったりしている姿を見ると子どもはそれだけでも安心したり、自分もやってみようという意欲を持ったりします。職員一人ひとりが自分の役割を果たしながら職員集団の中で主体的に過ごす事が出来る職場環境を心がけています。</p>
	<p>乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。</p> <p>私たちが忘れてはならないこととして「保育者は教える立場ではなく子どもの育ちを支える立場である」という事です。子どもたちが安心して自分をさらけ出し、受け止めてもらえる保育者との関係を築くためには、まずはどのような人なのか保育者自身も自分をさらけ出すことが大切です。保育者も人間ですので、失敗することもありますし、怒ったり泣いたりすることもあります。その一つの手段として、「おとなの発表会」を実施しています。職員みんなでの一つのことに取り組む事もあれば、一人ひとりの特技を披露することもあります。そこでの合言葉は「大人の本気！」職員自身が本気で何かに立ち向かう姿を見て一緒に過ごしていく先生に親しみを持ってもらいたいと思いが行っています。先生たち真剣だったな、なんだかいつもと違うな、失敗したけど一生懸命だったな等・・・子どもたちが感じると、今度は自分たちもやってみようかな、先生たちと関わりたいなという思いを抱くようになります。このように保育士自身が自分をさらけ出す子どもたちも受け入れてくれ、普段の生活の中での関係も深まっていきます。</p>
	<p>生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。</p> <p>・自分でやろう、やってみようという意欲を引き出す事と臨界期を見極めて接することを大切にしています。例えばトイレトレーニングです。トイレトレーニングに関しては本当に様々な捉え方があり、子ども自身が自分から訴えてくる時期を持つという考えもあります。しかし、大きくなれば羞恥心が芽生えてきたり失敗してしまうことを恐れたり、発達のにはできるはずなのにオムツのままでもいい、など排泄関係とはまた違った心の育ちも見えてきます。そうなるからでは子どもにとって不安を感じたり、保護者も焦りを感じてしまったりすることにもなりかねません。そのため当園では子どもの排泄関係を見極め、身体の発達を促してパンツへの移行を促しています。大抵1歳児クラスの夏ごろですが子どもによっては0歳児の後半ごろから午睡明けにオムツが濡れていない時にトイレに座ってみることもあります。子どもたちがやってみようという意欲は大前提ではありますが、それを持つだけではなく、身体発達の発達が見られる場合はさらに意欲を引き出せるような関わりのもと、やるべきタイミングで出来るように心がけています。</p>
	<p>学生へのメッセージ</p> <p>・保育という営みはまさに人が人と生きていくための土台作りです。これって何だろう？やってみよう！難しいな・・・頑張ってみよう！！と感じたり、誰かと一緒に楽しみな・誰かのためにやってみようと思ったり、そういう心はその子が大きくなった時にその子自身を成長させる大切な糧となります。そのためにはこの乳幼児期にたくさん人の思いに触れ、愛されているという安心感を抱くことができるような関わりを私たちは提供していかなければなりません。そのために必要なこと、それは保育者自身が自分の人生をどれだけ楽しく充実したものになるよう努力しているかだと思っています。貴重な学生の間にとたくさん人と触れ合い、たくさんの方と出会うことができると今後の保育者としての自分の糧になると思います。遊びも学びもバランスよく全力で楽しみ、たくさんの方の引き出しを身につけてください。</p>